

飼育活動における安全面・衛生面への配慮

生き物の正しい飼育方法を知ることは、生き物とのかかわりを深めるうえで、とても大切です。獣医師との連携をはかり、適切な方法を教えてもらう活動を取り入れたいものです。学区内や教育委員会の指定医、都道府県の獣医師会などと連絡を取って、活動の趣旨を周知してもらったうえで、協力をお願いするとよいでしょう。

共通感染症

動物の病気のなかには、ヒトと動物に共通して感染するものがあります。この原因となる病原体は、生き物のふん、尿、体液に含まれることが多いので、動物の体調を右のような観点でふだんからチェックしておくとういでしょう。大きな問題があれば、教育委員会に報告するとともに、獣医師、家畜保健衛生所または保健所に相談しましょう。

- ・元気で食欲があるか
- ・せき、くしゃみをしていないか
- ・毛や羽のつやはよいか
(逆立ったり、抜けたりしていないか)
- ・ふんや尿の状態はよいか
(色やかたさ、血がまじっていないか、
寄生虫の有無などをチェックする)

動物のココを
チェック!

事故
防止

子どもの健康管理のために注意すること

- ・動物にさわる前後には必ず手を洗う
- ・口移しでえさを与えたり、一緒に寝たりするなどの過剰なふれあいを避ける
- ・室内で飼う場合は換気をよくする
- ・体調の悪いときは、動物との接触を避ける
- ・動物の排泄物や砂場などの排泄を行いやすい場所に注意する
- ・アレルギーのある子どもがいる際は、室内での飼育を避ける

ハムスターによるアナフィラキシーショック・鳥インフルエンザ

ハムスターによるアナフィラキシーショック

ハムスターにかまれた後、アレルギー反応によって呼吸困難などに陥った例が、世界で数件確認されています。喘息の人やハムスターにかまれたことがある人がアレルギー反応を起こしやすいようです。また、ハムスターに近寄って目が赤くなったり、くしゃみが出たりする人も注意が必要です。

高病原性鳥インフルエンザ

ヒトが鳥インフルエンザウイルスに感染するのは、病鳥と接触した場合やそれらの内臓や排泄物に接触するなどした場合が多く、鶏肉や鶏卵からの感染の報告はありません。詳しくは、厚生労働省のホームページに最新情報と対策が掲載されていますので、ご参照ください。





